

中期目標の達成状況に関する評価結果

香川大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（17項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、15項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、1項目が「良好」、7項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」で

あり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「課題探求能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力の育成を図る」としていることについて、各学部の特性に応じた少人数教育の推進、産学連携プロジェクト・ベースド・ラーニング (PBL) 形態の授業やその成果発表会を実施しており、その取組の成果として学生グループが「日銀グランプリ」に入賞したこと、学生からのアンケート調査において討論や発表を取り入れた授業の満足度が高いことは、優れていると判断される。
- 中期計画で「遠隔教育環境を整備し、合理的教育方法を確立する」としていることについて、大学教育開発センターと総合情報基盤センターを中心に、旧来の遠隔教育システムの再検討を行った後、分散型遠隔講義システムソフトの導入や、平成 19 年度にはキャンパス間接続回線の増速等が行われ、各キャンパスに分散した学生に向け、遠隔教育システムが高学年向け教養科目や各学部専門科目等で活用されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「学年進行に対応した相談しやすい環境を構築する」としていることについて、生活・就職・健康相談体制の充実・強化を行い、学年や性別に合わせた男性・女性の就職相談員の配置やキャリア支援センターにおけるガイダンス回数の増加等、支援体制の強化により、就職相談件数が増加していること、また、医学部キャンパスでは、カウンセラーの増員により、健康相談件数が飛躍的に増加していることは、強化した各種相談体制が実質的に機能している点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「学生のキャリア形成のための教育を低学年時から行う」としていることについて、入学時から卒業までキャリア教育を体系的・実践的に実施しており、「地域連携型キャリア支援センターの新機軸」が現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、「キャリア・デザイン入門」等のキャリア関連科目の拡充によって、就職・キャリア形成支援が強化・充実したことは、優れていると判断される。
- 中期計画で「社会的活動を支援する体制を整備する」としていることについて、学生参加型の教育改善、教育研究環境の改善・向上を目的として、学生を委員に加えた「大学づくり委員会」の設置が、学生の社会的活動を行う機会となっており、学生の発案によるラウンジ改修や大学のイメージキャラクターの設定を実現していることは、学生と教職員が一体となった大学運営が推進されている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「学生、同僚等による授業評価を導入する」としていることについて、平成 19 年度より全学的に同僚評価 (授業参観) を実施しており、授業のビデオ撮影・放映、公開授業の実施、テレビシステムを活用した別室でのモニター視察等の授業評価・研修方式を確立し、教務委員会の検証において、その有効性が確認されているこ

とは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画で「入学試験成績と入学後成績、卒後進路の相関調査等を客観的に評価する方法を案出する」としていることについて、アドミッションセンターにおいて、「大学接触・志願・入試・卒業時成績の一元的管理・分析システム」を構築しており、入学前の情報から管理し、効果的な入試広報等に活用していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「外国語教育において、少人数教育の充実とコミュニケーション能力を向上させる方策をとる」としていることについて、平成17年度より英語教育の1年次演習において、TOEIC IPテストを義務化しており、達成目標値を設定し、同テストの点数を成績評価項目の一つに加えている。また、TOEIC IP運営委員会を設置し、テストの成績分析等を行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「インターンシップ受入企業・施設等との連携強化を図る」について、経済産業省の産業人材施策「若者と中小企業とのネットワーク構築事業」に香川経済同友会と連携して採択され、実践型インターンシップを実施することで、地元企業との連携強化が図られていることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由]「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11項目）のうち、1項目が「良好」、10項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「高松地域知的クラスター創成事業及び糖質バイオクラスター形成事業を重点的に推進する」としていることについて、中核研究機関として研究を推進し、希少糖の大量生産や他分野への応用化、当該大学を中心とする国際希少糖学会の開催等によって、糖質バイオ研究の国際的研究拠点形成が図られていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「独創的で将来性に富む研究を重点かつ中長期的に支援する」としていることについて、独創的かつ先端的研究として、学長裁量経費によって支援された小型人工衛星の開発、単分子薄膜の開発、海洋環境改善効果を持つ人工漁礁の開発が、それぞれ文部科学大臣賞（科学技術賞）の受賞につながるなど高く評価されており、地域における産業の活性化にも貢献していることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「ベンチャー起業の支援を目的とした支援施設の整備を図る」としていることについて、地域開発共同研究センターでは、香川大学発ベンチャー企業への共同研究室の優先利用等を行った結果、共同研究室の利用が促進され、ベンチャー企業に有効に活用されていることは、地域の新規産業創出に貢献している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「生命情報科学（Bioinformatics）の研究拠点を形成する」としていることについて、医学・医療・医工学に基礎を置いた生命情報科学研究の推進のため、平成17年度から複合医工学シンポジウムを開催し、複合医工学インスティテュート国際組織の設立等によって、複合医工学に係る研究の展開、研究拠点形成が図られていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「地域の要請に応じた研究課題に取り組む」としていることについて、学長裁量経費による研究推進経費を工夫して配分し、「プロジェクト研究」等を育成しており、「地域社会におけるエイジング総合研究」や経済学部による「香川大学生による直島活性化プロジェクト」等、地域に根ざした研究が行われていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「競争的原理に基づき、研究成果を反映する予算配分とする」について、平成16年度より学長裁量経費等を活用し、公募等によって「プロジェクト研究」、「萌芽研究」、「特別奨励研究」等の支援を行っており、特に「プロジェクト研究」に対して、学外有識者も交えた評価委員による客観的評価に基づき、重点的な予算配分を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、1項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「国際インターンシップ制度の改善を行う」について、平成12年度より工学部とフランス・サボア大学との間で地域企業の協力を得て、国際インターンシップを実施しており、法人化以後も見直しを行いながら実績を積み重ね、この大学間交流が、香川経済同友会と THESAME メカトロニクス開発公社の地域産業界間での交流協定に発展し、大学間交流・地域間交流が強化されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「地域の情報教育の充実やITを使った事業に貢献する」としていることについて、香川県と連携し、「かがわ遠隔医療ネットワーク」の機能拡大、セキュリティ向上に係る研究等を実施したことが、「地域医療情報連携プロジェクト」として全国6地域に拡大し、この取組が地域医療の格差是正に貢献したとして、経済産業大臣表彰（情報化推進部門）の受賞につながったことは、優れていると判断される。
- 中期計画で「知的クラスタープロジェクトを強力に推進する」としていることについて、希少糖生産施設を建設することで、希少糖基準試薬キットの作成・販売、共同研究企業による3種類の希少糖試薬の販売等を支援していることは、高松地域知的クラスター創成事業を推進し、これら希少糖生産技術が大学発ベンチャーの設立に寄与している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「研究面での相互連携の制度化を検討する」について、医学部では、がんプロフェッショナル養成プラン「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」や科学技術振興調整費「臨床研究・臨床への橋渡し研究：若手医師の臨床研究者としての育成プログラム開発」によって、岡山大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学、鳥取大学、川崎医科大学等とコンソーシアムを構築して事業を展開していることは、公立大学や私立大学との教育研究連携が強化されている点で、特色ある取組であると判断される。